

## 第5学年 学級活動（2）指導案

日 時 : 平成26年10月10日(金) 6校時  
 児 童 : 5年1組 男15名 女23名 計38名  
 指導者 : 山内 弘文  
 (すこやかサポート 佐々木晴菜)

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かわり、学びを深める児童の育成～

震災当時、私は内陸部の学校で勤務していた。激しい揺れが続いたあと、停電により確かな情報を得ることができなかった。家族の安否は携帯電話でなんとか確認できたが、両親とは連絡がとれず、夕方にむかったのは実家の両親のところだった。道路の街灯や信号機は作動せず真っ暗な風景が続く。時折見えるガソリンスタンドはすでに長蛇の列になっており、異様な光景だった。自分も片道分のガソリンしか残っていない状態だった。幸いにも両親は無事であったが、電気がないために頼りになったのは、携帯電話やラジオ。しかし、山間部のため電波の状態も悪く、携帯も充電する術もない状態であった。長く続く余震が更なる不安を煽った。

私たちの身の回りにはたくさんの情報がある。むしろ、あふれている。しかし、震災時には、便利ははずの携帯電話は回線の混乱で連絡をとりたくても連絡できない状態が続き、バッテリーが切れれば何の役にも立たなかった。大災害の歴史を振り返っても、大災害に対する不安が別な行動に転嫁し、買いだめなど通常とは異なる行動をとったことにより社会的混乱が発生している。情報の収集・判断・発信は命を守る上で大切であることを実感した。

震災から3年半過ぎた。当時、1年生であった子どもたちは、高学年として成長してきた。様々な活動を通して明るくすごしている。しかし、その一方で、3年半という月日から、だんだん震災時の記憶が薄れてきているのも確かだ。定期的に「そなえる」について子どもたちと確かめ、やがて大人になった時に、次の世代に語り、繋ぎ合う教育をするのが、私たちの目指す「人づくり」である。

本題材の「どんな情報を信じればいいのか」では、命を守るために、情報をどのように活用したらいいのかを考え、主体的に実践しようとする態度を育てていきたい。

### 1 題材名 どのような情報を信じればいいのか？

### 2 題材の構想

#### (1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

##### ○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

##### ○内 容

[第5学年及び第6学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。

##### [共通事項]

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全  
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

#### ○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低学年	☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常の生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。	☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。 ☆危険な状況を見つけた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。	☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。
中学年	☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。	☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。 ☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気をつけることができる。	☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちを持ち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をとることができる。
高学年	☆災害発生メカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。 ☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。	☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。	☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。

(2) 題材構想図

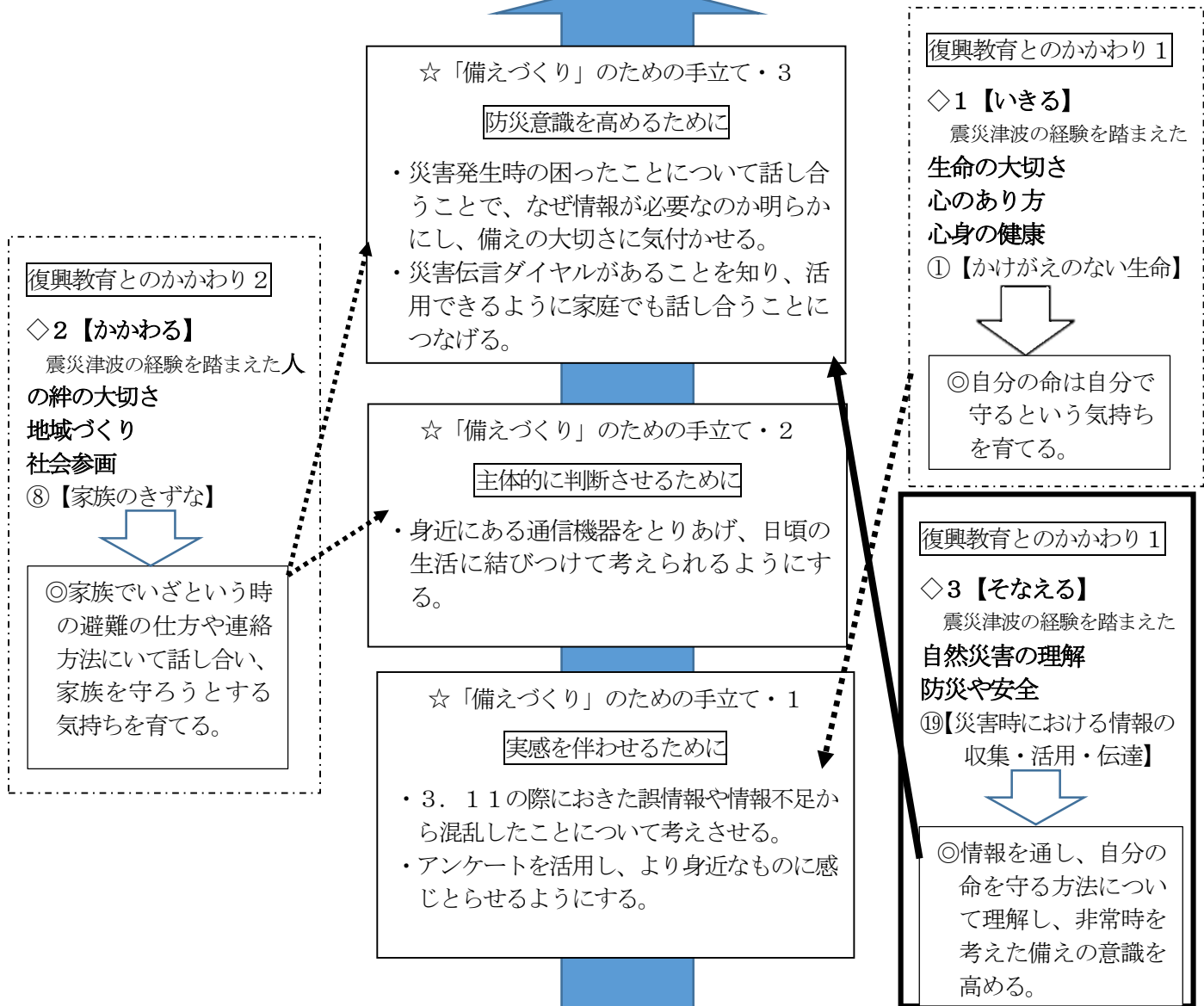
◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

防災教育=復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子どもの姿》

【つなぎ合う～備えづくり～】

災害発生時における情報の収集、選択・判断を、発信の方法などを理解し、いざという時に活用できる子



**【児童の実態】**

○男女仲良く活動し、明るい雰囲気。  
 ●言葉遣いが悪く、感情のままに話す子がいる。  
 ≪防災意識についてのアンケートから≫

・緊急時にどこに避難したらいいのか話し合い、避難場所がわかっている。	36人 (94%)
・家族のだれかは携帯等もっている	38人 (100%)
・自分専用の携帯等もっている	12人 (38%)
・固定電話がある	16人 (42%)
・災害伝言ダイヤルを知っている。	1人 (2%)
・防災意識は高い方だ。	24人 (63%)

**【題材について】**

東日本大震災における混乱の中、不安を強く感じ、そのような状況にもかかわらず正確な情報が入らないことで更に不安を増長させた。誤情報は、物理的な被害をうけていない人々さえも不安を煽った3.11の教訓をもとに、災害発生時の正確な情報の入手の仕方や、情報をもとに的確に判断することの重要性や、安否確認のための「伝言ダイヤル」等の活用の仕方を学ぶことで、日頃の備えについて考え、実践しようとする態度を育てることが出来る題材である。

(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
仲間と協力して、進んで話し合い活動に取り組むことができる。	災害に対する備えについて考え、率先して行動することができるようにする。	災害時に、どのような情報行動をとった方がいいのか正しく理解することができる。
<p><b>【防災教育との関連】</b> イ 危険予測・主体的な行動</p> <p>☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。</p> <p>☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。</p>		

3 指導計画

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	評価規準 (評価方法)
事前	○実態調査	学級活動	震災当時を振り返り、災害時困ったことについて考え、情報をつかむためにどんな方法があるのか気付かせる。	<b>【関心・意欲・態度】</b> 情報についての家庭の備えが十分かどうか考えようとしている。 (質問紙)
	○台風と天気の変化	理科	台風のおよその進路とそれに伴う天気の変化を理解するとともに、台風による災害を調べ、情報の活用と日頃からの台風に対する備えについて気付かせる。	<b>【知識・理解】</b> 台風による災害と防災・減災するために情報と私たちの生活との関係について理解している。 (ノート・発表)
本時	○どんな情報を信じ、どのような行動をとった方がいいのか考える。	学級活動	日頃からの備えが大切であることに気付かせる。 (本時の展開を参照)	<b>【思考・判断・実践】</b> 必要な情報の収集、選択・判断・発信の方法を、根拠をもとに考え、家庭でも主体的に実践しようとしている。 (ワークシート)
事後	○家族で災害伝言ダイヤルや日頃からの備えについて話し合い、実践する。	課外 (家庭)	災害が起きたときのために、日頃からどのような備えをすればいいのか、授業で学習したことを生かし、家庭でも実践できるようにさせる。	<b>【思考・判断・実践】</b> 家族で話し合い、災害に対する備えをしようとしている。 (実践カード)
	○わたしたちのくらしと情報	社会	現代社会における情報の役割と生活とのかかわりについて調べ、普段からどのように関わっていったらいいのか考えさせる。	<b>【思考・判断・表現】</b> 情報の果たす役割を考え、情報を暮らしに生かすために大切なことを考えている。

4 本時の学習について

(1) 目標

○災害発生時における情報の大切さや、情報の収集、選択・判断、発信の方法などを理解するとともに、主体的に活用できる態度を育てる。

(2) 評価規準

思考・判断 ・実践	(発言・ワークシート) 災害時における誤情報や情報不足からの危険性を、考えることで、日頃から適切に情報に対して判断する重要性に気付き、家庭でも主体的に実践しようとしている。
--------------	---

<p>&lt;努力を要する児童への支援&gt;</p> <p>震災等非常時の生活を思い起こさせ、命を守るために何が必要か、情報がないとことや誤情報で困ることはないか考えさせる。</p>
--

(3) 「備えづくり」のための手立て


<p>ア 実感を伴わせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3. 11 の際におきた誤情報から混乱したことについて考えさせる。</li> <li>・ アンケートを活用し、より身近なものに感じとらせるようにする。</li> </ul> <p>イ 主体的に判断させるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近にある通信機器をとりあげ、日頃の生活に結びつけて考えられるようにする。</li> </ul> <p>ウ 防災意識を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生時の困ったことについて話し合うことで、なぜ情報が必要なのか明らかにし、備えの大切さに気付かせる。</li> <li>・ 災害伝言ダイヤルについて説明し、活用できるように家庭でも話し合うことにつなげる。</li> </ul>
---

(4) 展開

授業前	○リラクゼーション	○心と体をリラックスさせる。安心して授業に臨めるようにさせる	
段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・ 期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ 7分	<p>1 震災直後の混乱についてふりかえる。</p> <p>○6. 15、3. 3、3. 11 共通していることは何ですか。</p> <p>○震災直後、みなさんが知りたかったことはなんですか。</p> <p>☆波の高さはどのように表していますか。</p> <p>2 東日本大震災において誤情報により被害を大きくしたり、不安を煽ったりした例を知る。</p> <p>○間違った情報が広がると、どんなことが起こりますか？</p> <p>3 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○日付から、地震につなげ、震災時のことを想起させる。</p> <p>○津波情報をすぐ知りたいことをとらえさせるが、3.11 の際、最初の波の高さの予報は低く、3 m、6 m、10 m以上と時間と共に変化していったことを示す。</p> <p>○海拔について説明し、自分たちの学校の海拔について捉えさせる。</p> <p>○当時の具体的な事例から、誤情報が不安を大きくしていったことを捉えさせる。</p>	<p>◇地震発生直後の波の予想が低く、判断を鈍らせたことや、海拔から、今自分達がいる場所と実際におきた波の高さと比較している。</p> <p>◇誤情報により不安が増加することを理解している。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>正しい情報をつかみ、判断する方法を考えよう。</p> </div>			

ふかめる 30分	4 正確な情報を得るための方法を考える。 ○大災害などの緊急時に正確な情報を得るためにはどのような方法がありますか。 ・防災無線・ラジオ・テレビ ・パソコン・カーラジオ ・カーテレビ・携帯ワンセグ ・掲示板・新聞	○停電などの緊急事態を想定させたいで考えを練り上げていく。  ○東日本大震災直後の情報収集手段について確かめさせる。 (復興教育副読本P53)	◇停電や想定される状況でも正しい情報が得られる方法を、理由をもって発表しようとしている。
	5 得られた情報を適切に判断することについて話し合う。 【つなぎ合う】	○判断の困る場面設定を共有化し、情報にふりまわされないためにどうしたらいいのか考えさせる。	◇どうすればいいのか明確な理由をもって話し合いをしている。
<p>ある日の夕方。一人で留守番をしていると大きな地震が起こり、大津波警報が発令されました。親の携帯に電話をしてもつながりません。結局、勇気をふりしぼり、避難所に一人で避難しました。一人でさびしい気持ちです。近くの大人の人が、「この前も津波はこなかったから、もうもどってもいい頃だ。」と言っているのを聞きました。あなたは、家にもどりますか。</p>		<p>結局避難所には残り、一晩すごしました。家の人とは確認がとれません。避難している人の携帯やメールもつながらないようで困っていました。親が働いているあたりで、火事がおきたといううわさも聞き心配です。あなたは、どうやって、親と連絡をとりますか？</p>	
	6 家族の安否確認について、伝言ダイヤルや伝言板があることを知る 7 本時の学習をまとめる。	○日頃からの備えは、伝言ダイヤルだけではないことにも気付かせる。  ○停電でもつかえる情報機器の備えや情報の発信源がどこなのか確かめ、判断することが大切であることをおさえる。	◇伝言ダイヤルという方法があることを理解している。
ひろげる 8分	8 ふりかえり 【つなぎ合う】	○災害にあった時に、正確な情報をつかみ、正しく判断するために大切なことをふりかえり、非常時の際にどうするのか家族で話し合うことの大切さに気付かせるようにする。	◎日頃からの備えが大切であることに気づき、家庭でもできる備えについて実践しようとしているか。 (ワークシート、発言)

(4) 板書計画



大津波警報発令！  
予想される津波の高さは\_\_m以上です。


正しい情報をつかみ、判断する方法を考えよう。

**災害時 正しい情報をつかむ方法**

- ・防災無線 ・ラジオ・テレビ
- ・パソコン・カーラジオ
- ・カーテレビ・携帯ワンセグ

停電でもつかえるもの  
・情報が本当に正しいのかを確かめる。


結局避難所には残り、一晩すごしました。家の人とは確認がとれません。避難している人の携帯やメールもつながらないようで困っていました。親が働いているあたりで、火事がおきたといううわさも聞き心配です。あなたは、どうやって、親と連絡をとりますか？



避難所に一人で避難しました。一人でさびしい気持ちです。近くの大人の人が、「この前も津波は大丈夫だったから、もうもどってもいい頃だ。」と言っているのを聞きました。あなたは、家にもどりますか。

**安否確認の方法**

公衆電話  
掲示板  
災害伝言ダイヤル



もどる
もどらない

